

「ふみくら」

—神都における図書館—

ふるさとの風
～神無月～



10月27日から11月9日は「読書週間」。
戦後間もない昭和22年、まだ戦火の傷あとが残るなか、「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと始まったのが読書週間である。

神都伊勢において、図書館の役割を担っていたのは「文庫」であり、また文庫は一種の学校という性質ももっていた。

慶安元（1648）年、出口延佳の提唱に同志70名が賛同・出資して設立したのが「豊宮崎文庫」。その名称については、豊受大神宮の先にあることから名付けられたようである。
全国から当文庫に著書を寄贈した人も多く、それらの図書を整理し、保管して利用に供していた。そして図書の扱ただけでなく、講師を招いて講演を行うこともあった。室鳩巢、伊藤東涯、また大塩平八郎などが講師を務めたという。
郷土の学者、足代弘訓や御巫清直らもこの文庫で学んでいた。

文庫が設立されるまで、神宮には内宮に「文殿」、外宮に「神庫」という建物があり、書籍を保存していたが、一般に公開されたものではなかった。延佳らは外宮祠官や子弟等、志学の者が利用でき、学問所にもなる文庫を目指していたのである。



また、内宮側の「林崎文庫」も様々な歴史をもっている。貞享3（1686）年、宇治会合所の年寄等が山田奉行岡部駿河守に請い、幕府の下賜金を得て翌年丸山の地に「内宮文庫」が建設された。そして、この地が湿潤で図書の保管に適しないという理由で、元禄3（1690）年に林崎に移し「林崎文庫」と改称した。現在、林崎文庫は内宮宇治橋の向かいにひっそりと佇む。その門の瓦には、左右にそれぞれ「正」「直」という文字が刻まれている。

「浄明正直」—「浄く明るく正しく直く」。神道の精神である。

かつてここを訪れた者たちはみな、「正直」の門をくぐり、その精神を学んだのであろう。簡素で落ち着いた建物を眺めていると、かつてここで討論した者たちの声が聞こえてくるようである。



両文庫ともに、わが国調査研究図書館の先駆をなすものとされている。

— 私たち伊勢図書館は平成4年10月、

岡本より現在の地に移転し、新図書館として来年20周年を迎えます。

郷土資料を所蔵する「ふるさと文庫」は、先人たちが紡いだ知識の宝庫です。—

- 伊勢市史 第七巻 文化財編 （伊勢市／編集 伊勢市 L243／イ／7）
- 宇治山田市史 下巻 （宇治山田市役所／編 国書刊行会 L243／ウ／2）
- 三重の歳時記 （中野イツ／著 光書房 L386／ナ／1）